

『生きる』

志布志市立有明中学校 3年 大山 陽向

私は糖原病Ⅰ型という難病指定の病気を患っています。毎日数種類の薬を数回に分けて服用し、運動や食事制限などがあり、皆と同じように日常生活することができません。今私の一番辛い症状は気温が上昇すると鼻血が出始め、中々止まらないことです。ひどいときには一時間以上も出続け、その度に専門の病院へ通っています。そして、皆の助けがあり奇跡的に生きている私ですが、生死をさ迷ったこともあるのです。

昨年の休み突然発熱し、コロナに感染しました。世間でもコロナ感染者が増え続けている中で、絶対にコロナに感染してはいけないと言われていたときだったのです。そのまま意識が無くなり床に倒れ伏しました。この後のことは全く記憶にありません。意識が戻ったのは二十日後でした。その間ICUで生死をさ迷っていました。呼吸器につながれ、手足にはいくつもの点滴。輸血。透析。鼻血は止まらない。目が明いているだけで、全く動くことさえできませんでした。容態は悪化し、両親も私の死を覚悟していたと言います。奇跡的に一命を取りとめることはできましたが、以前にも増して生活が制限されています。

中学三年生になった現在も、月に一度の定期検診、急変すれば救急車の出動をお願いします。私は周囲の人の手助けなしでは生活できません。両親、祖父母にも心配をかけっぱなしです。その中でも一番気がかりなのは多額な医療費のことでした。

そんな時です。社会の授業で『税金』について勉強する機会がありました。税金は払うものだとばかり思っていました。働くとなら所得税に市民税、買い物をすると消費税を納めるくらいのは知っていました。しかし、それはほんの一部だということを学んだのです。先生の話で、税金は住みよい社会、より多くの人達が幸福に暮らせる社会を築くためのものであること、そして、それを切っ掛けに、私の治療にも大きく税金が関わっていたことを知ったのです。

私の治療費には『小児慢性特定医療費』というのが使われており、税金が私の治療費の一部を助成していたのです。毎日数回にも分けて服用している薬にも税金が使われていて、私は皆に生かされていると思いました。この制度のおかげで両親の負担が減りとても助かっていたのです。母が話していました。「助成があるから十分なことがしてあげられる。ありがたい。」と。

私は難病を抱えながら生活しています。多くの人に助けられている命、奇跡的に助かった命を本当に本当に大切にします。一分一秒も無駄にせず生きて行きます。

私は将来幼稚園の先生になりたいと思っています。その時、私の納める税金が、病める人々に手を差し伸べ、一人でも多くの方々を救ってくれるものであって欲しいと心から願っています。そして全ての人々に幸せを。